

# 事業内容② 医療介護従事者向け研修（令和5年度研修アンケート結果）

## R5 アンケート結果（リアルタイムオンライン講義・事前聴講動画）抜粋

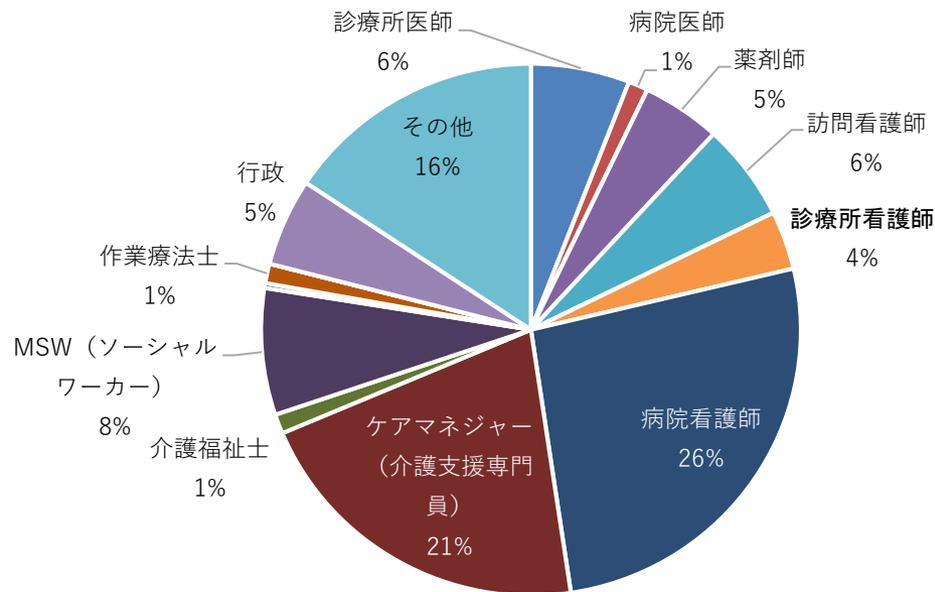
### 【調査概要】

- 調査対象／令和5年度アドバンス・ケア・プランニング取組推進研修 リアルタイムオンライン講義 受講者
- 調査の実施方法／受講者がWEBフォームにより回答
- 調査期間／令和6年2月7日（水）～令和6年3月15日（金）
- 回答数／338

N=338

### ◆職種

診療所医師	20
病院医師	4
歯科医師	0
薬剤師	16
訪問看護師	20
診療所看護師	12
病院看護師	89
ケアマネジャー（介護支援専門員）	71
介護福祉士	4
MSW（ソーシャルワーカー）	26
理学療法士	1
作業療法士	4
言語聴覚士	0
歯科衛生士	0
栄養士	0
行政	18
その他	53

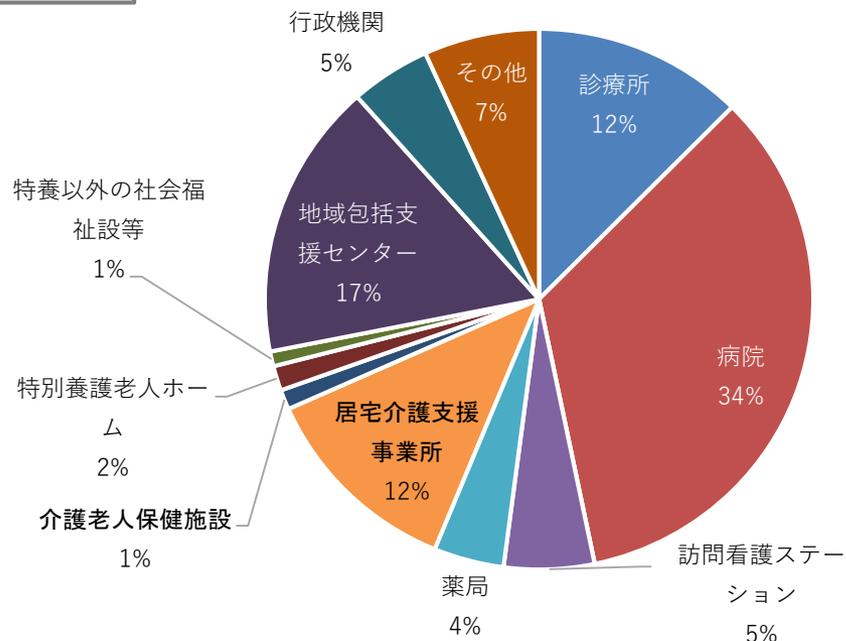


# R5 アンケート結果（リアルタイムオンライン講義・事前聴講動画） 抜粋

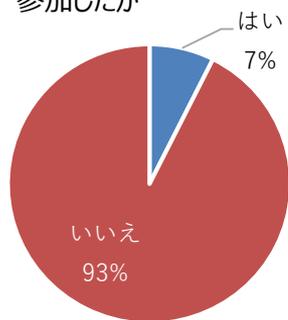
N=338

## ◆勤務施設

診療所	42
病院	116
歯科診療所	0
訪問看護ステーション	18
薬局	14
居宅介護支援事業所	41
介護老人保健施設	4
特別養護老人ホーム	5
特養以外の社会福祉施設等（障害者支援施設、サ高住等の居住系施設等）	3
地域包括支援センター	56
行政機関	16
その他	23

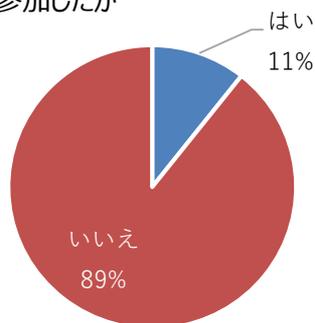


## ◆R2 ACP取組推進研修に参加したか



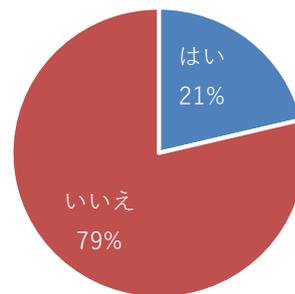
はい	25
いいえ	313

## ◆R3 ACP取組推進研修に参加したか



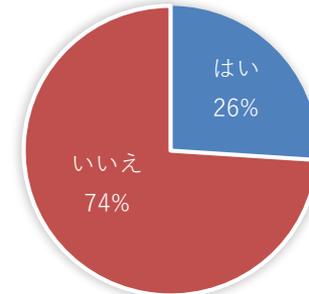
はい	36
いいえ	302

## ◆R4 ACP取組推進研修に参加したか



はい	72
いいえ	266

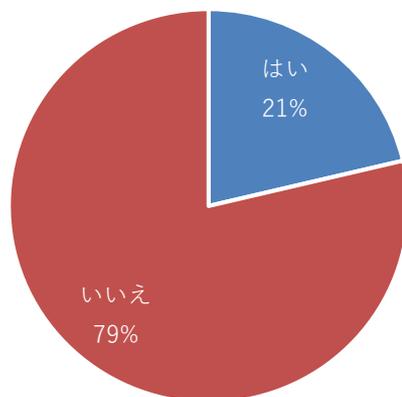
## 過去に1度でも当研修を受けたことがあるか



はい	88
いいえ	250

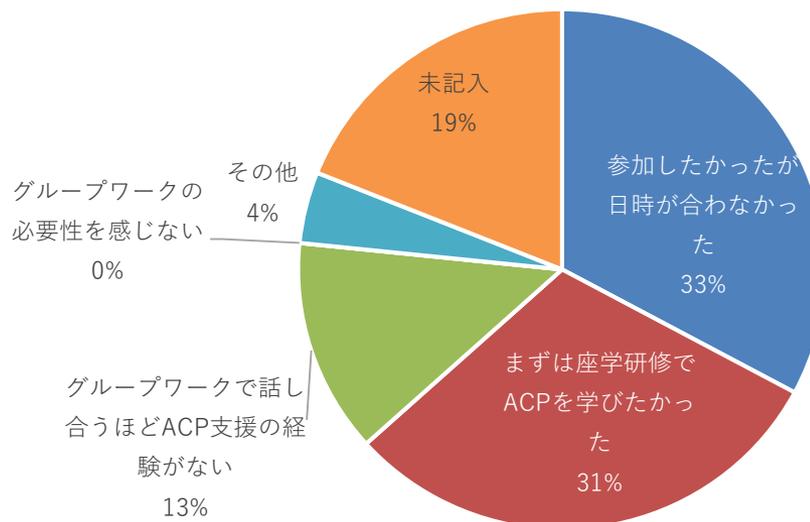
◆今年度のグループワーク研修の参加を希望したか

はい	67
いいえ	271



◆（いいえと回答した方）希望しなかった理由

参加したかったが日時が合わなかった	111
まずは座学研修でACPを学びたかった	103
グループワークで話し合うほどACP支援の経験がない	45
グループワークの必要性を感じない	0
その他	15
未記入	64



◆「事前聴講動画（R2～R4の事前聴講動画とリアルタイム講義をACPの基礎としてアーカイブ配信したもの）」は参考になりましたか

とても参考になった	137
参考になった	183
どちらともいえない	16
あまり参考にならなかった	1
参考にならなかった	1

### 【自由意見】

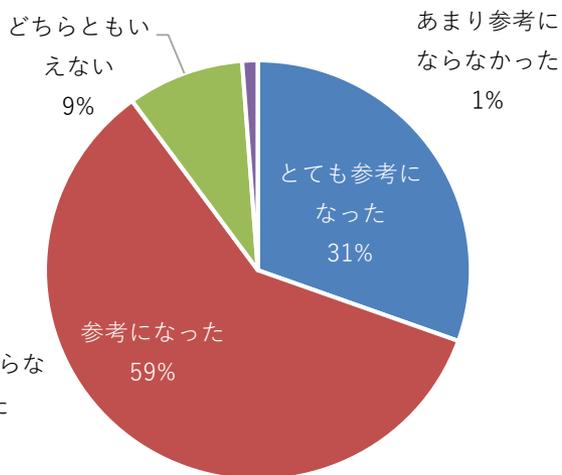
- ・「わたしの思い手帳」をじっくり考えながら読むことができ、書き込み編の活用ができると思った。
- ・ACPの概念を聞いた上で事例に挑むことが出来たのでよかった。
- ・ACPでは何が大切か、問題となるかなどについて知ることができた。
- ・オンライン講義を迎える前に前もって聞いたおかげで、頭に入りやすかった。
- ・ACPとはなにか、基礎的な知識を学ぶことができた。
- ・ACPについて、各セッションからの視点でどのような問題があるのかを知ることができた。
- ・ACPについて、基礎から実例を含めて解説いただいて知識を深めるとともに取り組み方についても知ることができた。
- ・ACPについての理解がなかったので、入口として学ぶことができた。
- ・ACPの簡単なイメージがつけやすかった。
- ・ACPの基礎知識や進め方など、基本的な部分の再確認ができた。
- ・ACPの基本をおさらいすることができた。病院にいて、患者としての姿を見ることが当たり前になってしまいが、自分が同じ立場なら、といった観点で考えることがなかったなと振り返るきっかけになった。
- ・ACPの基本を分かりやすく解説して頂けた。
- ・ACPの基本的なことを学ぶことが日常的にはないので勉強になった。
- ・分かりやすい内容だった。ACPの考え方について十分に復習できた。
- ・ACPの全体像を理解して、研修に臨めた。ACPの必要性について理解できた。
- ・年を重ねるごとにACPの議論がより実践に即した形で深化・進化しているような印象を受け、実践を通じ考え続けなくてはいけないことを自覚し、自身の中でモチベーション向上に繋がった。

### 【どちらともいえない】等のご意見

- ・所属している病院、地域はACPの取り組みに日々力をいれている。目新しい情報ではなかった。

## ◆「事例発表① 特別養護老人ホームにおけるACP」は参考になりましたか

とても参考になった	103
参考になった	201
どちらともいえない	30
あまり参考にならなかった	4
参考にならなかった	0



## 【自由意見】

- ・「生活を継続する」ことが看取りケアという考え方に感銘を受けた。
- ・Q&Aで「認知症ではあっても、意思表示することは出来るのではないか」と話されていたが、私も共感する言葉であった。認知症と決めつけない関わりの大切さを考える事例でした。
- ・いつも老人ホームなど後方施設に送る立場にあり、そこに至るまでの私たちの役割が考えられました。
- ・ケアマネジメントの観点から日頃の他愛のない会話の中から行えること。在宅から施設入所をする時、本人の思いを引き継いでいくことが大切なことと深く理解することができました。
- ・ほとんどの方に認知機能低下がみられるが、入所時の意思確認に始まり、施設での生活の中でご本人にとって何が生き甲斐となっているのか、施設職員の意識の持ちよう等、在宅とは異なるプロセスが勉強になりました。
- ・医療機関と福祉施設との、死の話題に対する職員の意識の差や、介護度が高い方から意思確認をする事の難しさを知る事が出来ました
- ・現場でのさりげない意思表示が、日常会話から何気なく聞き取りでき、それを繋いでいくことができれば、ご本人にとっても尊厳ある終末期を過ごせる支援になることを改めて確認しました。明日からの業務に活かせればと思います。
- ・特養でもACPを考える時代になっていることを具体的な事例で認識することができたから。今後特養に退院する患者のサマリーを作成する際にはACPを意識して作成しようと思う。
- ・特養ならではのACPの難しさが分かった。

## 【どちらともいえない】等のご意見

- ・介護現場の大変さは想像できますのでもっとリアルな現状を伝えてもよかったと思います。

## ◆「事例発表② 地域包括支援センターにおけるACP」は参考になりましたか

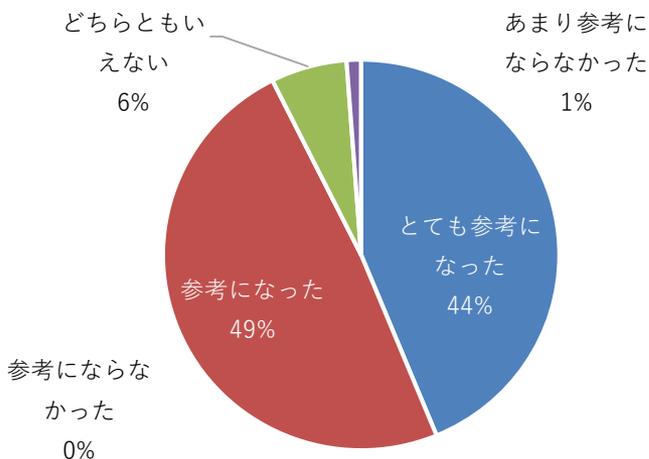
とても参考になった	148
参考になった	165
どちらともいえない	21
あまり参考にならなかった	4
参考にならなかった	0

## 【自由意見】

- ・ 独居、男性、認知症、介入の拒否、という難しいAさんを根気強く支えた大変いい事例と感じました。認知症の方にはこのような根気強い関わりが必要であり、信頼関係の構築に繋がっていくと感じました。
- ・ 1人の方にこれ程多くの地域の方の力を注げる事に驚きがあった。独居で年を重ねていくことに希望を感じた。
- ・ こんなに細やかにご本人に向き合い寄り添っていくことができればとても素晴らしいと思う。ただ、すべてのケースにここまで関わっていくことは難しいのではないか。
- ・ とても丁寧に関わられており、ご本人の意思や価値観など尊重した対応が参考になりました。
- ・ 医療と介護・福祉の多職種連携、チームで支える重要性を感じました。
- ・ 家族がいない認知症高齢者の支援は困難で、根気がいると思った。最終的に決めるのは誰なのか、考えさせられた。
- ・ 個人の価値観や人生観に対して必要な介入について粘り強く関わりを持つ姿勢が素晴らしいと思います。
- ・ 専門職だけでなく地域住民も巻き込んだ繋がりを持つ重要性を感じた。
- ・ 多職種連携の見本のような事例で、大変参考になりました。強いて言えば、多職種間でどのように情報共有されていたのか、その実際を詳しく知りたかったです。
- ・ 本人本位のサポートを多職種連携で実践されており、地域の見守り体制のモデル的な事例だったと思いました。

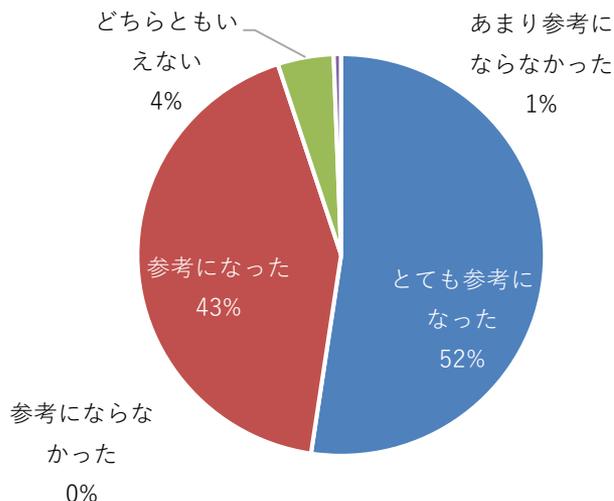
## 【どちらともいえない】等のご意見

- ・ きめ細やかな支援は限りがあり難しいと感じます。ただ地道に勧めていく必要性を感じました。
- ・ 介護保険につながらない方に対して、すべての事例でこのような対応することはできないと思います。包括だけががんばることのない、地域や関係作りが必要だと感じます。



## ◆「事例発表③ 若年がん患者のACP」は参考になりましたか

とても参考になった	177
参考になった	144
どちらともいえない	15
あまり参考にならなかった	2
参考にならなかった	0

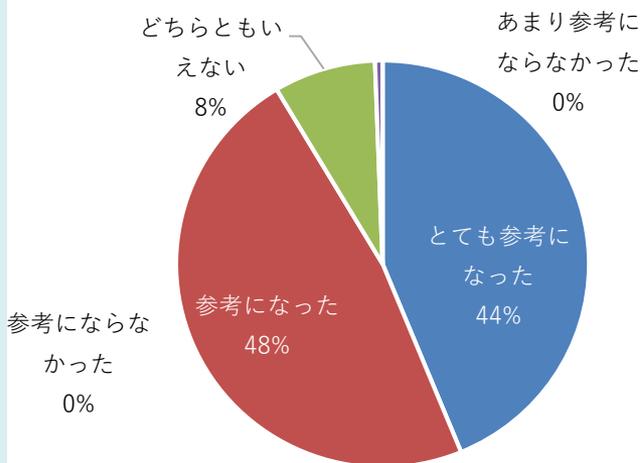


## 【自由意見】

- ・ 若年者の癌患者に、最後をどのように考えるか、を聞くことはとても難しいと感じていました。正直聞けないです。自身で意思決定ができるからこそ、ACPのプロセスが大事だと感じました。
- ・ ACPというどちらかという高齢者ばかりがあげられますが、患者・家族1人1人がどうしたいか、しっかり話し合えるような環境、情報提供をしていかないといけないと感じました。
- ・ ACPという言葉だけに惑わされず、本質的な部分を共有していくことが必要だと思いました。
- ・ ACPという言葉は使わず、一緒に考えることが大切だと学ぶことができました。
- ・ ACPの過程が人それぞれであり、医療者の介入の仕方が重要であることを痛感しました。医療者の言葉選びやタイミング、様々な診療科が関わる患者である際に、いつ誰が伝えるかや、方針を全体で共有することが大切だと感じました。
- ・ ACPの本質が理解されていない事例。まだまだACPの理解と周知が足りないのは残念。
- ・ 自分の言葉選びや関わりについて振り返りました。医療者側からの講義が多いけど、患者側からの思いがよく伝わってくる内容でした。この事例を出してくれた川崎先生に感謝します。
- ・ AYA世代がん患者のACPについて、悩んでいたため、参考になりました。
- ・ AYA世代の方への対応！とても参考になりました。その方の思いをつなぐこと、医療者と家族、本人の思いをお互いに共有することの重要性を知ることができました。
- ・ ご本人がご自身で最後までしっかりとACPが出来た、専門職だったからできたという珍しいケースだったと思いました。ACPという言葉がとても固く訳が分からない言葉に聞こえてしまうものと改めて思いました。
- ・ つらい事例だったが、この事例こそACPだと感じた。
- ・ 事例にでてきた医師の配慮に欠けている言葉の使い方、実際の現場でもあると思う。
- ・ 病院の医師・看護師などのACPの考え方や姿勢を問う事例であった。

## ◆「パネルディスカッション」は参考になりましたか

とても参考になった	148
参考になった	161
どちらともいえない	27
あまり参考にならなかった	2
参考にならなかった	0



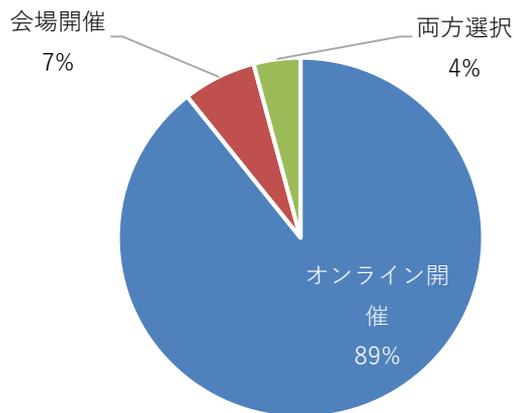
【どちらともいえない】等のご意見  
・抽象的な話が多かった印象。

## 【自由意見】

- ・ ACPにおける様々な視点からの意見を伺うことができ、知識理解を深めることができた。
- ・ ACPについて、以前から言葉だけが一人歩きしているような印象がありました。今回のような学びの場が必要と感じ、多方面からの視点を持って様々なご意見を聞くことで病院でどのように介入すべきか参考になりました。
- ・ ACPばかりが注目されるが、人生は選択と決定の連続であることから、ALP（アドバンスド・ライフ・プランニング）という話がなされていたことが非常に印象的でした。
- ・ ACPはプロセスだし、必要な時にACPという言葉を使わずに話をしていくことが大切だと感じた。
- ・ こんなにもいろんな職種が集結するディスカッションはとても貴重でした。
- ・ それぞれの質問や返答でうなずけること、新たな考え方もあり参考になりました。
- ・ パネリストの皆様の立場が異なるため、同じケースに対してもここまで考え方が違うのかと参考になった。
- ・ パネルディスカッションでは自分が心に思っていた意見をいう出席者がいたりして、より親しみを持ってさらに話を聞くことができた。
- ・ 医療や介護、地域と様々な視点からの意見を知ることができました。
- ・ 各事例を各立場でとても適切に返答していて、その答えもその深さと適切さもさすがと思いました。
- ・ ACPに関する考え方、取り組み方、パネリストの方たちの思いが熱い。頭が下がります。
- ・ 職種等で意見に相違があるのは当然。ACPの中心は本人。豪華なメンバーで、まるでACPをしているようだった。
- ・ 新田先生が議題に沿った専門職の意見を展開させ聞きやすかった
- ・ 様々な職種、立場の方の意見がうかがえてとても参考になった。特に医療職の方と介護関係の方では考え方やアプローチに違いがあり、だからこそ良い連携が良い支援につながるのだと改めて感じた。
- ・ 要所要所で稲葉先生の包括的なコメントに気付かされることが多い。介護度や年齢で決めつけない、認知症があっても意思決定は工夫次第で割とできる。経験に裏打ちされた素晴らしい視点だと思う。

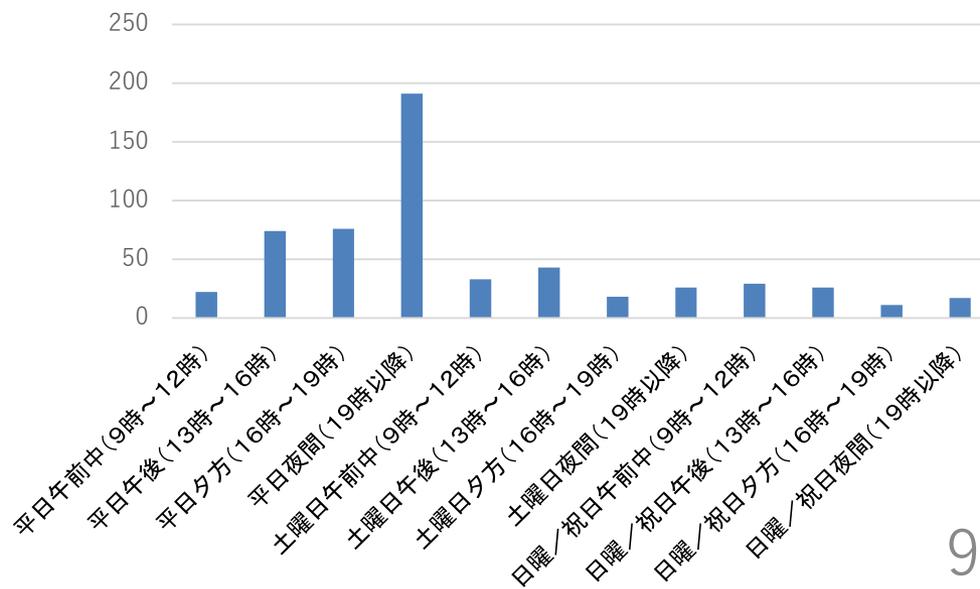
◆希望する今後の研修の開催方法

オンライン開催	302
会場開催	22
両方選択	14



◆希望する今後の研修の開催日時

平日午前中（9時～12時）	22
平日午後（13時～16時）	74
平日夕方（16時～19時）	76
平日夜間（19時以降）	191
土曜日午前中（9時～12時）	33
土曜日午後（13時～16時）	43
土曜日夕方（16時～19時）	18
土曜日夜間（19時以降）	26
日曜／祝日午前中（9時～12時）	29
日曜／祝日午後（13時～16時）	26
日曜／祝日夕方（16時～19時）	11
日曜／祝日夜間（19時以降）	17



## ◆どのような内容の講義を受講したいか

**【要望が多かったもの①】事例検討**

- ・今回のようないろんな事例を参考にさせていただくと、分かりやすく理解しやすい。
- ・今回のような事例のディスカッションは大変参考になりました。
- ・今回のような事例をテーマとして検討する内容でよいと思います。
- ・今回のような事例検討が良いと思います。疾患別の事例検討など。
- ・今回のように、いろいろな立場や職域でのACPの話やシンポジウムは興味深かったので、また聴きたいです
- ・今回のように、事例や統計的なものだと分かりやすいので受講したいと思います。
- ・今回のように事例や取り組みを通して、自機関以外でどうACPIに対する支援を行っているかを学ぶことが出来ると良いと思います。
- ・今回のように事例をもとに話し合うのはとても参考になりました。
- ・今回のように実例をどんどん積み重ねて共有して行ってほしい。介護施設での先進的取り組みについてぜひ知りたい。
- ・今回の異なる3事例など、関わる現場ごとを深掘りできる講義。
- ・今回の様な事例を通して多職種で考えていきたいです。とても良い研修でした。
- ・今日のような事例発表が参考になると思う。
- ・今の方法で良いです。もう少し質疑応答があると興味深いと思います。

**【要望のあった事例】**

認知症、がん末期、小児がん、慢性疾患、透析患者  
セルフネグレクト、治療拒否、独居や単身世帯、生保、  
患者家族への寄り添い方、救急搬送時  
在宅、施設、病院（急性期、地域包括病棟等）

**【要望が多かったもの②】コミュニケーション方法**

- ・ACPにおける障壁や促進因子について。コミュニケーションスキル。
- ・ACPの話し方、会話のもっていきかた。
- ・たわいもない会話から進めると考えつつも切り口がなかなか難しいため、どのようなきっかけから開始できたのか成功例または失敗例などの事例を聞きたい
- ・どういふうにご本人の意向を聞き出していくのか、という具体的な手順について。
- ・どのようなタイミングで話されているのか。また、内容など具体的に知りたい。
- ・より実践的なアプローチの方法
- ・意思決定能力に応じた対応、コミュニケーションについて
- ・言葉かけの方法など具体的なコミュニケーションのとり方について知りたいです。
- ・実際にどのような声掛けをするとより効果的なのか。
- ・実際のやり取り、言葉のかけ方

**【その他に要望のあったもの】**

- ・学術的な研究
- ・海外での取組
- ・ACPに価値を見出せるチーム作り、多職種連携の在り方
- ・医療者・介護者のジレンマへの対応の仕方
- ・スタッフへの教育・普及活動
- ・法律的な側面から、弁護士の話
- ・トラブル事例の法的な側面

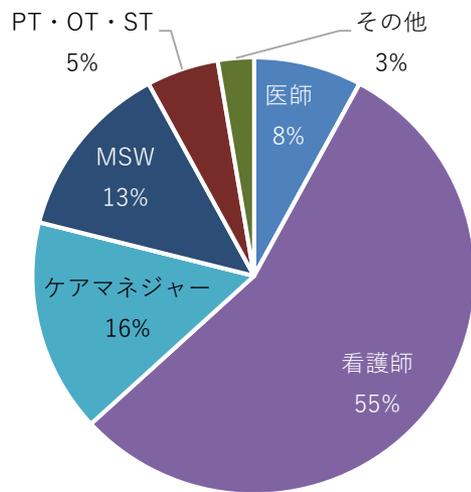
【調査概要】

- 調査対象／令和5年度アドバンス・ケア・プランニング取組推進研修グループワーク 受講者
- 調査の実施方法／受講者がWEBフォームにより回答
- 調査期間／令和6年3月3日（日）～令和6年3月12日（金）
- 配布数／44 ○回収数／38

◆職種

医師	3
歯科医師	0
薬剤師	0
看護師	21
ケアマネジャー	6
介護福祉士	0
MSW	5
PT・OT・ST	2
その他	1

<その他記述>  
サ高住相談員

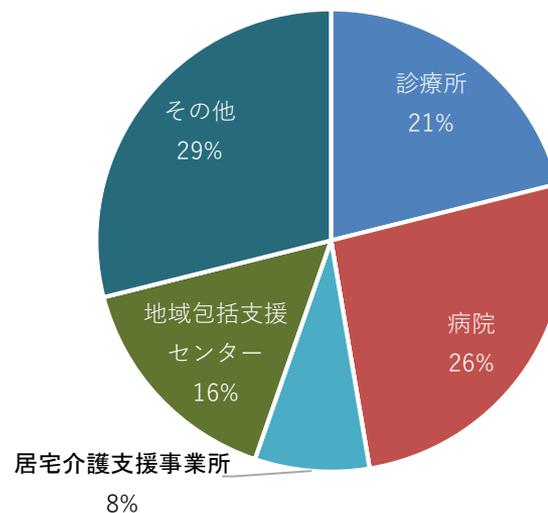


◆勤務施設

診療所	8
病院	10
歯科診療所	0
薬局	0
居宅介護支援事業所	3
介護老人保健施設	0
特別養護老人ホーム	0
特養以外の社会福祉施設	0
地域包括支援センター	6
行政機関	0
その他	11

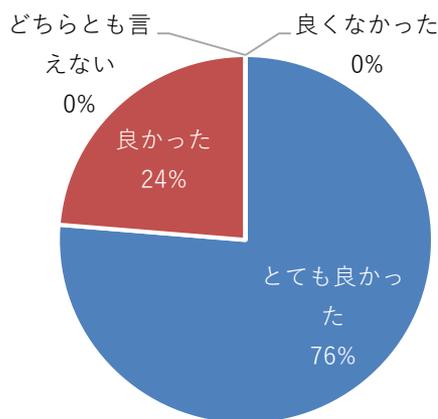
<その他記述>

- ・一般型サ高住
- ・看護小規模多機能かえりえ用賀
- ・看護小規模多機能型居宅介護
- ・在宅医療介護連携支援センター
- ・在宅療養支援窓口
- ・訪問看護ステーション／6名



## ◆【事例検討① 地域包括支援センターにおけるACP事例】のグループワークは、いかがでしたか。

とても良かった	29
良かった	9
どちらとも言えない	0
良くなかった	0

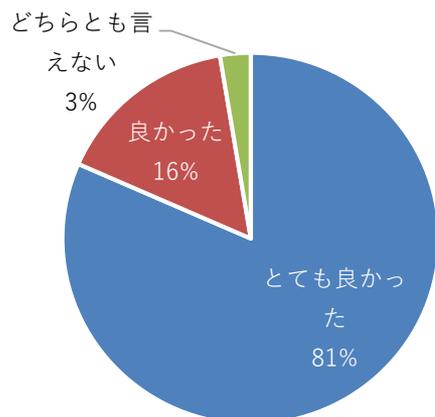


## 【自由意見】

- ・地域包括支援センターでは、よく遭遇するような事例だったと思います。私がこのような事例ばかり増えては対応ができなくなると思ったのに対し、このような支援ができてすごいと言われる方もいらっしゃったので、立場が違えば事例の見方も変わってくると勉強になりました。
- ・地域包括が中心になるのではなく、他の関係機関の力も借りながら支援をしていけるといい。
- ・問題の本質はどこなのか、意思決定支援についてなど、多岐にわたり意見交換ができて、普段の支援にも生かせると思います。
- ・ひとくりにACPといっても、介護的視点が強く必要な場合（QOL向上や維持、直接的に生命に直結しない段階）と医療的視点（生命に関わる状態）に重きを置く場合があるように感じた。
- ・ACPは地域だけでも病院だけでも偏りがある。医療的側面や、生活的側面も合わせる必要がある。
- ・それぞれが、日頃のご自分の職業での経験から活発な意見を聞くことができた。
- ・とにかく皆様の意見が聞けて知らなかったことや異なる考えを共有できたことが大きかった。あとは自分自身どのように業務にいかしていくか、研修の意見を考えをまとめていきたいと思います。
- ・治療についての意思決定は、自分のようなMSWがもっと関わらなくてはいけないと感じた。
- ・医療者としての視点に偏りやすい自身の傾向や、手術するかしないかではなく、どう生活をしていきたいかという視点を持つことの重要性に気づかされた。
- ・私は病院勤務ですが、地域で働く職種のグループメンバーとディスカッションをし、地域での現状、苦悩を知ることができました。地域で関わる支援者は、対象者が元気だったころや病気が進行する前を知っていることもあるため、病院で働く者として、地域との連携を図ってACPを進めていく努力をしたいと思いました。
- ・多職種の方はどういう思いでどう考えているのか知ることができた。
- ・地域で暮らす認知症のある独居高齢者の事例はよくあるが、粘り強く関わっていくことや地域の特性を活かすことが大切であると学んだ。
- ・リアルタイム研修の際自分と同じ様に感じている方がいることが分かりました。共有が出来てよかったです。具体的には西田先生が仰っていた内容に納得したといったところです。
- ・本当に支援が必要となったときを逃さず介入できるように関係を築く大切さ。寄り添うための適度な距離感も大事だと思いました。日々のケアや会話の中からもその人の意思を拾い上げてチームで共有すること。

## ◆【事例検討② 若年がん患者のACP事例】のグループワークは、いかがでしたか。

とても良かった	31
良かった	6
どちらとも言えない	1
良くなかった	0

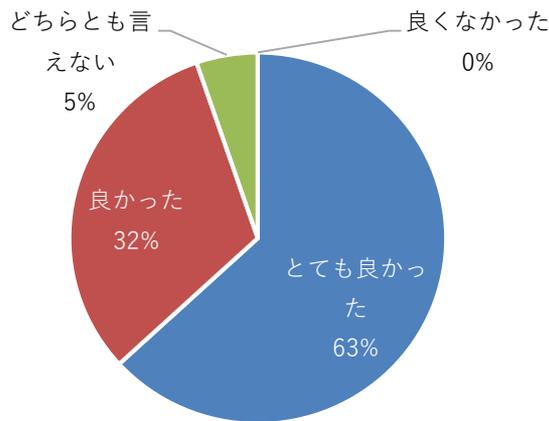


## 【自由意見】

- ・若年ならではのところと、高齢者でも尊厳を保つということは同じだろうという意見などを交換できて有意義でした。やはりACPやBSC等について、関係者がもっと理解しないと支援が進んでいけないということで一致しました。
- ・ACPの実践について本人家族と寄り添う時期や方法が違った事や支援の方法について特にグリーフケアへの取り組みについて話し合いが出来て良かった。
- ・AYA世代の方の関わり方、ご家族への支援の必要性、在宅と病院との連携。グリーフケアも含めた支援などを意見交換できました。
- ・がん患者に対する医師としての取り組み、バッドニュースの伝え方を詳しく聞いた事が良かった。日頃の自身の業務で、良かったと思う事が発見出来た。
- ・それぞれの職種による角度からたくさん意見が出ました。40歳未満の地域包括支援センターが関われる年齢に達していない方の支援や寄り添う人はどうすれば良いのか、家族支援する人はどうすれば良いのか？課題の多さを感じました。
- ・医療の関わりの必要性や、両親の対応など、考える大切さを学んだ。
- ・治療を担当した主治医への批判に留まることなく、患者・家族への支援のあり方や患者・家族の向き合い方等についても幅広く討論でき、視野が広がった。ACP実践において医師への期待の声は高かったが、影響力は大きいものの医師のみに押し付けるべきものではないし、ACPIに関わる支援者の支援もないと負担が大きいだろうなと感じた。
- ・若いからこそこの課題について話せた。頑張る事の限界を共有すること。他の人に決めてもらっても良いこと。ACPの受け入れの準備の有無の判断が重要であり、聞きたいか聞きたくないかの意思にも聞く事があること。支援者を共有し、どう支援するのかも平らな関係性で支援する大事さをまなぶ。
- ・若いゆえの役割の多さだったり、同じ境遇の方が少ないための孤立を改めて考えさせられました。特に何でもできてしまう方は支援者側も任せてしまうところがあるので、ピアサポートは大事だと思いました。また、家族を含めた支援の重要性と本人・家族を含めたチームで話し合う事が大事だと思いました
- ・地域包括支援センターの事例のように院内で支える存在、チームがあれば良いとメンバー全員で共有した。

- ◆【①自身の職場でACPを行うにあたって困ったこと・大変だったこと、成功したこと、②今後自身の職場で実践したいACP推進の取組】のグループワークは、いかがでしたか。

とても良かった	24
良かった	12
どちらとも言えない	2
良くなかった	0



### 【自由意見】

・同じ医療職でも違う環境で仕事をされている方から、いろいろな意見を聞いて勉強になりました。その中で本人の支援、ACPを進めていく上での、制度上の課題や、連携する上での課題なども見えてきました。どのように支援をするか、だけでなく、どのように仕組みを作っていくか、連携していく機関等にどのように理解していってもらうかも考えていきたいと思いました。

・①に関してはご本人の、気持ちを確認する大変さなどを共有できました。しかし②は時間も限り、ほとんど話しあう事ができなかったため、残念でした

・ACPとは？の原点に戻れました。

・ケアマネや病院内での課題が聞けた 今後連携を通じて同じ支援者になりうる事を共有する事ができた

・まだまだ自施設ではACPが浸透していないので、参考になった。

・医療職にいかにか理解して貰えるか、そこも含めてチームケアの大切さの学びがあった。

・今回のグループワークでは看護師の方が多かったのですが、それぞれの施設で行っているアプローチ方法などの貴重なご意見をいただきました。

・私も含め、どのように進めていこうか迷っているメンバーが多かったため、上手くいった事例を聞いてみたかった。様々な考え方があるので、上手くいくということがどのようなかんじなのか分かりませんが…。

・自身の職場では出来ない思いである事を話した時、参加者からかけられた言葉がとても参考になった。視野が広がった。

・実践レベルでどのように行ったり、皆さんはどう考えているのか少し知ることが出来た。

・信頼関係をつくること、相手を知ろうとする態度、日々のちょっとした会話の積み重ねがACPには重要だと感じました。

・他グループから出た、井戸端会議人生会議という言葉がとてもしっくり来た。前職において、ACPが実践できていると感じる時ほど井戸端会議がしっかり行われていたように感じる。東京都から厚労省に名称変更を進言しても良いのではないかと考えるほど素晴らしいネーミングだと感じた。職場内でACPの実践が進まないことのもどかしさを表明した時に、ACPという言葉を用いずとも日々の診療の中で意思決定支援に繋がることはされているのではないかとのご指摘を他メンバーからいただいたが、患者の表明した意思が医療者の考えと合致した時のみ、その意思が尊重される現状を考えるとやはり意思決定支援と呼べる代物ではないことを確認した。

・地域、職種間、実際の普及度、理解度がわかって今後の普及や理解を深める必要性を認識した。

・働く場によっても課題がいろいろあることを学んだ。

・日常元気な方へのACP啓蒙の必要性とそのアプローチの難しさを再認識した。

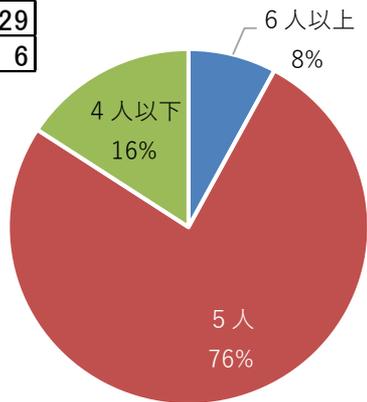
・認知症、軽度知的障害者等、理解力の低い人へのアプローチについて、もう少し話し合いがしたかった。

# R5 アンケート結果（グループワーク） 抜粋

N=38

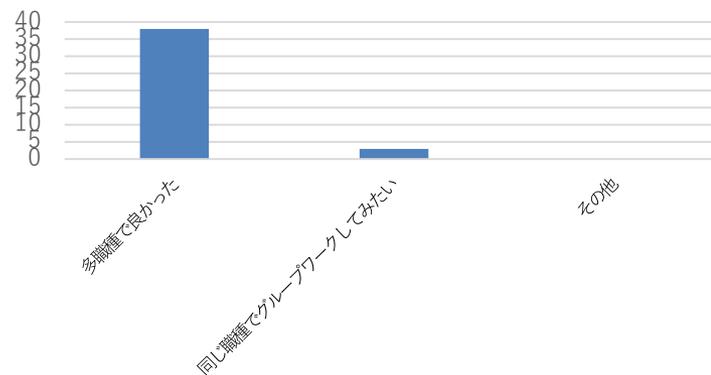
◆ 今回のようなグループワークをするにあたって、何人のグループが適当か

6人以上	3
5人	29
4人以下	6



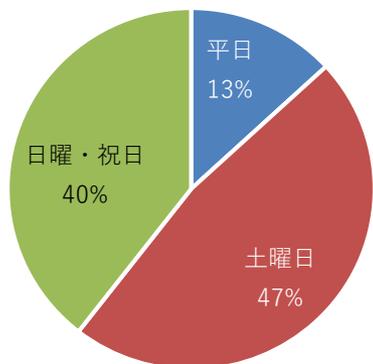
◆ 今回のグループワークのグループ構成（多職種）

多職種で良かった	38
同じ職種でグループワークしてみたい	3
その他	0



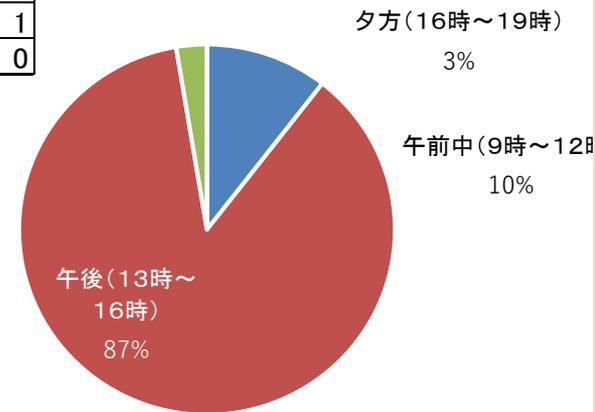
◆ 今後のグループワークの開催希望日

平日	5
土曜日	18
日曜・祝日	15



◆ 今後のグループワークの開催希望時間

午前中（9時～12時）	4
午後（13時～16時）	33
夕方（16時～19時）	1
夜間（19時以降）	0



## ◆ ACP についての理解を深めるため、今後グループワークで取り扱ってほしい内容

- 広めるための活動について。うまくいった（成功した事例）、うまくいかなかった事例について。
- （繰り返しですが）介護職の立場から、日常元気な方へのACP啓蒙アプローチの具体的な方法や展開方法が知りたいです。高齢者ご本人・家族に「ACPを考えておいたほうがいい」と肌で感じてもらいたいです。
- ACPで困った様々な症例をもう少し時間を取って深く学び合いたい
- ACPの介入困難事例（困難ケースを考慮することで次回以降に活かせるとかながえるため）
- ACPも含め、その内容を啓蒙する手段、など。
- ACPを阻害する要因や倫理的配慮が生じるケースへの向き合い方について
- ACP啓発のしかた
- ケアカフェなどでの多職種交えて意思決定支援ツールの使い方やテーマの決め方、導入方法
- ご本人のためのACPですが、家族間で思いが方向を向いているとは限らないと思います。ご本人の気持ちを尊重しながらも家族も納得出来る話し合いをしていくために、どのような関わりが出来るのか、関心があります。うまく説明出来なくてすみません…
- ナラティブ。琉球大学金城先生。ACPと意思決定支援の違い、関係性。
- ロールプレイでACPの実践
- 各々が市民や患者さんに意思決定支援を広げていく具体的な取り組みや成果などを話し合ってみたいです
- 今回のようにACPの事例（上手くいったもの、課題が残ったもの）を用いてのワークでよいかと思います。
- 今回のように実際の事例を通して学びを深めたいと思います。ステップアップ講座もあると良いなと思いました。
- 認知症があり 身寄りのない方 生活保護で暮らしている方 精神疾患で ご家族の支援も得られない方 精神疾患を抱えたご家族の支援を 受けながら暮らしている 高齢者
- 支援の流れ
- 事例を通しての学びを継続してほしい
- 事例検討
- 循環器疾患や糖尿病など慢性疾患を持つ患者のACP
- 上手く支援が進んだケースだけでなく、うまく支援が進まなかったケースについても取り上げてほしいです。
- 職種ごとの考え方や支援の仕方、役割を知りたい。
- 身寄りのない方を支援した事例など。
- 東大の山本教授が研究している語りを使った事例説明だとワークしやすい
- 法律的側面
- 訪問診療、訪問看護で関わった事例を扱って欲しいです。
- 臨床倫理の考え方

## ◆本グループワークについて、ご意見やご感想

- 学びの多い研修でしたが時間が短かったと思います。先生方のお話も、もう少しかかえる機会があるといいと思います。
- あっという間で、もっと意見交換していたかったです。皆さんの熱い思いを持ち、専門職として関わっておられることを感じました。また、先生方がグループを回ってお話して下さった事も大変参考になりました。モチベーションも上がりました。ありがとうございました。
- コロナ禍はオンラインでの研修が多かったですが、やはり対面で様々な意見を出し合うことの大切さ、改めて必要なことだと感じました。他職種の方との意見交換も知識や考え方が広がり、医療はチームワークが本当に大切ということに改めて気付かされました。貴重な研修、本当にありがとうございました。
- いろいろな角度から、それぞれの職種として工夫していることを知った。
- いろいろな考え方を聞いて参考になりました。
- 講師の先生方に質問出来る時間があると良いかなと思いました。事前に質問を募るかたちでも良いと思いますが。
- とても有意義な時間になったと思います。いろいろな視点でどう関わるかのヒントを貰えました。
- とても良かったです。発表時間が短く、グループでの議論した内容や意見をもっと聞きたいと思いました。
- ファシリテーションに来て下さった先生方のお話がとても興味深かったです。様々な職種の方の視点から学ぶ事が出来て有意義でした。
- リアルな場はオンラインでは得られない学びがあります。参加して良かったです。ありがとうございました。
- 医療職、包括がグループワークを展開してくれた。書記はケアマネが得意。司会等は決めなくてもグループの力で出来そうです。
- 医療職の方と同じグループで、学ぶことが多かった。
- 皆様の意見がとても参考になりました。
- 事例検討もよかったが、集まったメンバーの方々がどんな思いや難しさを感じているのかという事の話し合いをもっと深くできるといいなと思いました
- 正直なところディスカッションが活発に行えたとは言えませんがACPは多職種での連携が必須と思うため、様々な意見やパワーバランスの中で、ご本人の尊厳を守り思いを尊重するという軸をしっかりもつことの大切さを考えることができました。ACPは特別なことではなく、ひとりの人として関心を寄せるという日常的な関わりがACPに繋がっていくのだと思います。組織の中にACPを推進、浸透させるために何が必要か足掛かりが掴めたように思います。とても有意義な研修でした。ありがとうございました。
- 他の人の意見が聞いて良かった
- 他職種の見解を聴くことができ、チームでACPに関わる上で配慮しなくてはいけないこと等を知れたように思う。実践において、活かせるような視線、姿勢を学ばせていただいたように思う。
- 多職種でのグループワークは、新しい視点や考え方を聞くことができ、さまざまな刺激を頂けてとても有意義な時間でした。現状ではACPは医療の方々は熱心に取り組んでおられますが、介護職の人たちの関心の低さも感じました。意思決定支援は日常的に支援できるとより信頼関係ができると思いますし、そのためには介護職がもっと関わるようになる必要があるのでは、とも感じました。
- 多職種でのグループワークは色々な立場の話が聞いて良いが一人の意見に引っ張られる感じもあり難しいと思った。アドバイザーの先生が入ってくれて良かった。
- 多職種での交流や貴重な事例検討をさせていただきありがとうございました
- 多職種で勉強になった。
- 司会のファシリテート力により、雑談のような形になりがちである為、趣旨を理解しているどなたかがファシリテーターとしてグループに配置されることが望ましいかと思われました。
- 様々な意見を聞くことができ大変勉強になりました。皆様第一線で活躍されている方ばかりで言葉に全て説得力がありすぐにでも職場で活かしていきたいと感じました。